

## 二十回生 佐井寺を歩く

二十回生 浅野 倉平

二十回生は、同期会の活動として、二年に一度の「懇親会」(昭和五十五年より十四回開催・毎回約五十余名が参加)と「ゴルフ同好会」(千二オーブン) (昭和五十八年より四十八回開催)、それに、六年前から新たに始めた「千里山を歩く会」などを定期的に行っております。こんなに色々な会がありながら、しかも、長続きしているのは、何よりも、荒木弘進君(雪組)・樺山(三笠)翠さん(星組)・堀上(葛野)快子さん(月組)をはじめとする幹事さん方の努力の賜物であると深く感じ入っております。

昨年の歩く会は、第三回目となりましたが、この度は、一専門ガイドの案内により「旧千里山遊園地の桜を見て、今と昔の佐井寺を歩こう」と言う事で、三月二十九日に実施しましたが、二十名もの参加者があり、幸いにして天気にも恵まれ、桜は三分

咲き程度でしたが、その分昔話しに花を咲かせて、ワイワイガヤガヤと和気藹々の内に、佐井寺ウオークを、しっかりと楽しみました。

歩いたコースは次の通りです。

関大前駅→旧千里山遊園地跡(現関西大学千里山キャンパスの一部)→関西大学高松塚古墳壁画再現展示室(注)→関西大学凜風館内学生食堂カリオン(昼食)各自負担による自由食)→ちご公園(地蔵塚跡・佐井寺給水池)→佐井寺南ヶ丘公園→せせらぎの道→向かい坂十三地藏→くり抜き水路取水口跡→佐井寺観音→おかうずみ池→伊射奈岐神社→佐井の清水→愛宕神社→千里山・佐井寺図書館→千里山駅 約四・五キロ

さて、千里山会会員の皆様、私達の尋ね歩いたこれらの場所の内、いくつお判りになりますか……

佐井寺に付きましたは、当会会誌一〇号に特別寄稿として掲載されました、一五回生伊藤登子さんが書かれた「サイ」と「ワニ」の寄稿文の中で、佐井



千里山・佐井寺図書館(千里第二小学校復元玄関前)

荒木(弘) 陰下

磯西 古堅 岡村 森 板谷 荒木(正) 浅野

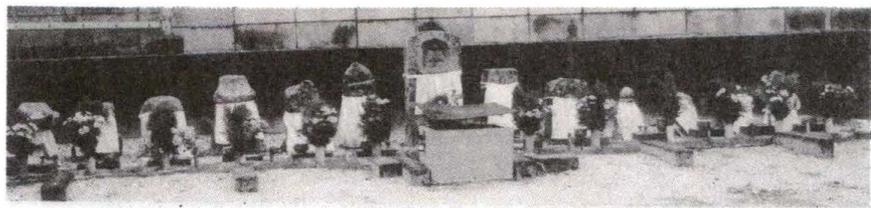
岩井 池端

伊藤 今里 北脇

葛野 日南田

大 浦 松 本 林

(女性は旧姓です)



向かい坂の道標(中央)と13体の地藏像  
道標には左きしべ右吹田と記されております

寺に関する資料として「吹田市佐井寺風土記こぼれ話」の一部が紹介されていましたが、今回、私達が佐井寺を歩くに当たり、この本が大変参考になり、関西大学の図書館から貸し出しを受け、今回の「歩く会」の配布資料作りの一助にさせて戴きました。尚、この「風土記」の末尾に、表紙題字は北脇欣一郎とありましたので、もしやと思い、同級生の石橋(北脇)祥子さんに、この欣一郎氏の事を確認致しましたところ、この方は、当時、佐井寺の町会長を勤めておられた彼女のお父上であつた事が判りました。

又、この「風土記」に登場されている佐井寺の谷光倫住職は、私も存知よりの方で、当時、我が家に良く出入りをされておられ、近所の方々に「詠歌などを教えたりなさっておりましたが、我が家とご近所では佐井寺のご住職というよりか「山田寺の院主さん」と呼ばれていました。

今回の佐井寺ウオークには、ボランティア組織の吹田まち案内人にガイドをお願いしましたが、その甲斐があり、知っている様で知らなかつた佐井寺の

再発見と、併せて、新しい佐井寺を見つけ出す事が出来、参加者には大変喜ばれました。吹田まち案内人は、以前、当会誌で紹介致しました「浜屋敷」〇六―四八六〇―九七三―で受付ております。

二十回生は、今年、千里第二小学校を卒業して六十年を迎える事になりました。卒業六十周年記念の同期会は次の如く開催されますので、二十回生は、是非、参会願います。

日 時 平成二十一年十月十八日(日) 十二時開会  
場 所 千里阪急ホテル

(注)平成二十年三月にオープンしたこの展示室は、昭和四十七年、高松塚古墳の石室発見直後に撮影された写真を陶板に焼き付け実物大に再現したもので、学校の休みの日を除き一般にも開放されております。この展示室ができたおかげで「飛鳥美人」が千里山の住人に加わりました。